

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 べにばな)

| | | | |
|---------|------------------|-------|-------------|
| 事業所番号 | 0670100940 | | |
| 法人名 | 株式会社東北医療福祉システムズ | | |
| 事業所名 | やすらぎ苑山形 | | |
| 所在地 | 山形県山形市東山形1丁目4-12 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 5年 11月 5日 | 開設年月日 | 平成13年 1月 4日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度もコロナ禍で行事は中止になりましたが、体操や歩行運動を日課にし、歌やゲームといったレクリエーション、ドライブ、散歩、外気浴、家事活動等を通して活気のある生活が送れるよう支援させて頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|---------|--------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人エール・フォーユー | | |
| 所在地 | 山形県山形市小白川町二丁目3番31号 | | |
| 訪問調査日 | 令和 6年 1月 10日 | 評価結果決定日 | 令和 6年 1月 29日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の中に位置し、利用者は目の前に広がる公園と近くの山肌を眺めて季節を感じながら、毎日穏やかに暮らしています。コロナ禍で地域行事などへの参加を自粛しており、主に屋内で活動しながら買い物に出かけたり公園の散歩やドライブにも出かけ、地域の中で利用者にとって楽しい生活を送ってもらえるように支援しています。開設して20数年が経ち、地域におけるケアの拠点として地域に開かれたサービスを提供し、利用者を主体とした生活環境の中で、趣味や嗜好に合わせた活動しながら安心して暮らせるように支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事務所に理念を掲げ職員が共有して実践に繋がっている | | | |
| 2 | | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩など外出の際に挨拶や会話などで交流している。地域の資源回収に協力している | | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 定期的に通信紙を発行し回覧してもらい、理解に繋がるようにしている | | | |
| 4 | | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 7月より対面での会議を再開し状況報告しながら意見を頂いている。 | | | |
| 5 | | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 介護相談員の受け入れを再開している。状況に応じ主に管理者が窓口に向いたり電話連絡などしている | | | |
| 6 | (1) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる | 夜間以外は玄関は施錠せず、センサーと常に所在確認で対応している。居室内で転倒、転落の恐れのある利用者はベッド柵等を使用して対応している。 | 身体拘束等の廃止に向けた研修を通して意識付けを図り、本社の「身体拘束等廃止委員会」と並行して「身体拘束等廃止小委員会」を設置し、現状の把握と改善に向けて取り組んでいる。職員のメンタルケアも行い、利用者の尊厳と主体性を尊重して介護を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | (2) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員同士が日々の生活の中で、身体の変化や内出血等の情報を共有、確認して防止に努めている。 | 虐待防止に向けた研修に参加し、情報を共有して虐待行為の防止に努めている。職員は暴言や無視・口調などによる弊害を認識し、不適切なケアにならないように互いに注意し合える体制を築き、多方面にわたって注意を払い虐待のないケアに努めている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している | 全職員が学ぶ機会はなかなかもてないでいる | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 主に管理者が入所時に家族へ十分に説明し同意を得ている。入所後の状態変更等で説明の必要があった場合には、その都度説明し理解を得られるようにしている。 | | |
| 10 | (3) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置したり、面会等で家族が気兼ねなく話す事が出来るよう心掛けている。また、利用者の思いを察する努力をし、運営に反映させられるよう努めている。 | 日々の生活の中で利用者から意見や要望を聴き、出来る限り応えるようにしている。家族等には生活の様子などを説明して要望等がないか尋ね、管理者を通して理解と納得が得られるように丁寧に対応している。 | |
| 11 | | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者には管理者から伝えてもらっている。職員から意見や提案がある時は相談できる雰囲気づくりが出来ている。 | | |
| 12 | (4) | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は管理者を通じて勤務状況を把握し、職員個々が無理なく勤務できるよう努めている。 | 代表者は職員の勤務状況や具体的な実績などを把握し、処遇改善や福利厚生面などを含めて職場環境の整備に努めている。意見や要望を聞く機会を設け、職員が意欲と向上心を持って働けるようにしている。 | |
| 13 | (5) | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修の機会が少なくなっているが、互いの知識や技術を学び合いながらケアの向上に努めている。 | 代表者や管理者は職員育成の重要性を認識し、資格取得を奨励して質の確保と向上に取り組んでいる。職員も市や県社協などで開催される研修等で知識や技術を習得し、サービスの質向上に励んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | コロナ禍により現在は実施していない | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面接で本人の様子を知り、関係者や家族から情報を出来る限り収集して本人が安心出来るように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用開始段階から十分な説明を行い、家族の要望や思いを受け止め、安心して相談できるような関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族の要望を聞き、施設に無いものが必要な場合は外部のサービスも利用して支援している。 | | |
| 18 | (6) | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 普段の会話や共に行う家事などでお互い学び合う気持ちで過ごし、支え合う関係づくりに努めている。 | 職員は利用者を主体にして常に敬う気持ちで接し、コミュニケーションを取りながら行き過ぎた介護にならないように注意している。利用者から教わることも多く、一人ひとりの得意とするところを活かして、その人らしく暮らせるように支援している。 | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会の際など、本人と家族の時間も大切にしながら、情報交換や思いを共有し共に支えていく関係を築けるようにしている。 | | |
| 20 | (7) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ感染等に留意しながら家族の協力の下、関係が途切れない様に支援している | 家族等の協力で自宅や兄弟のところに行ったり買い物や公園に出かけて言葉を交わすなど、馴染みの関係が切れないように支援している。その人の生活歴や価値観を大切に、趣味や嗜好なども大事にして柔軟に対応している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の心身の状態を見守りながら、利用者同士の関わりが円滑になるよう配慮・声掛けをし支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院先の病院や施設へ主に管理者が連絡することで、出来る限り関係を断ち切らないように努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 普段の会話から本人の思いを汲みとれるように働きかけている。困難な場合には行動や反応から推測したり、家族からの情報を元に把握に努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人の話しや、家族の協力を得ながら情報提供をしてもらっている。まとめた書類は常に確認出来るように個人記録に綴じている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 朝夕の申し送り、個人記録や伝言ノート等を使い把握に努めている。 | | |
| 26 | (8) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 各担当者がモニタリングを行い介護計画に反映している。現状の変化等があった場合には、その都度話し合い検討している。 | ケース会議で管理者と看護師やパートの職員も含めて、各種記録や生活の様子などを確認し、利用者家族等の意向を踏まえて介護計画を作成している。利用者の視点に立って必要とする支援を盛り込み、利用者が安心して生活出来るようにしている。 | |
| 27 | (9) | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録やチェック表等を活用して情報を共有し、実践や介護計画の見直しに繋げている。 | 生活状況を見ながら、介護計画に沿って適切に実践されているか評価を行っている。新たな気づきや課題について職員間で共有し、家族等の要望も含めて本人本位で検討し介護計画の見直しに活かしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者や家族の話を聞いたりして日々の生活の中での変化に対応出来るように努めている | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 主に公園や近所への散歩やドライブを楽しんだりしている。 | | |
| 30 | | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の往診を2週間に一回実施し現状の報告や相談をおこなっている。また、体調変化の際は受診支援を行い、家族の協力を得ながら適切な医療を受けられるように支援している。 | | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常勤の看護師がおり、異変や異常時は状態を報告し指示を受け対応している。 | | |
| 32 | (10) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている | 入院中は主に管理者が家族や病院関係者との情報交換を行い、早期に退院できるように努め、また、安心して治療が出来るように支援している。 | 利用者が入院する際には慣れない場所での治療や処置などで混乱が生じないように、医療機関に対して普段の生活の様子や支援内容などの情報を提供している。治療を終えて再び入居する場合には医療情報をもらって今後の支援に役立てている。 | |
| 33 | (11) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる | かかりつけ医と連携を取りながら取り組んでいる。家族等と話し合い、必要な方には終末期同意書を取り交わしている。 | 重度化や終末期については、「看取りに関する指針」を設けて入居時に本人家族等へ説明して理解を得ている。看護師を配置し、協力医の指示の基で看取りまでを行い、本人・家族等の安心に繋げている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 施設内にAEDを設置している。急変時のマニュアルを作成し備えている。実践力については夜間帯などに不安がある。 | | |
| 35 | (12) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 利用者、地域の方参加の避難訓練を実施している。災害時の地域協力者を決めて協力をお願いしている。 | 様々な災害を想定して避難訓練を行い、地域からも避難誘導や見守りなどの協力をもらいながら実施している。また消防署員から、通報・初期消火・避難などの訓練を通して指導や助言をもらい災害に備えている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (13) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 難聴の方には大声になってしまう事もあるが、個人の誇りやプライバシーを損ねないような言葉遣いや対応に配慮している。入浴や排泄時は特に気をつけるようにしている。 | 利用者一人ひとりの思いや意向、性格などを日常生活を通して把握し、人格を損ねないようにそれぞれのペースに合わせた支援をしている。また不穏な方や表出できない方にも寄り添いながら丁寧な言葉掛けで傾聴し、プライバシー保護に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 普段の会話等で思いを口にしやすいような環境づくりに努め、意思決定や希望を表せるように支援をしている。 | | |
| 38 | (14) | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事や休息时间等、一人一人のペースに合わせて本人の希望も尊重しながら支援に努めている。 | 入居前に事前面談で自宅での生活歴・日常動作・認知機能などを把握し、入居後も普段の会話等から得たことを記録して、職員間で共有を図りその人らしい暮らしに繋がるよう支援している。居室で趣味等の裁縫をしたり、リビングで創作活動をするなどそれぞれの好きなことができるように見守りをを行っている。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合わせた衣替えをおこない、好みの服が着られるように配慮している。床屋を呼んでヘアカットをしてもらっているが、行きつけの美容院を利用している利用者もいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人一人のペースに合わせた食事が出来るように心掛けている。片付けや食事前の準備を出来る方に手伝ってもらっている。 | 好きな物や食べたい物などを聞き、献立に組み入れて食事を提供して利用者から喜ばれている。食材の下ごしらえや味見をしてもらったり、「いただきます」の唱和で始まり、食後は進んで下膳まで手伝っており、自宅と変わらない食事ができるように支援をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスを考慮して個人に合わせた食事量を提供している。飲み込む力にあわせて刻み食やミキサー食、トロミ剤を使用している。 | | |
| 42 | (16) | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後必ず声掛けで実施している。必要な方は介助し、義歯を夜間預かり洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。(週1回または隔週1回の歯科往診を受けている) | 食事前に手洗いを励行し、毎食後に歯磨きを行って感染症予防に努めている。歯科医師が毎週往診してメンテナンスや治療を行い、口腔内を清潔にして疾病を引き起こさないようにしている。 | |
| 43 | (17) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンや状態を把握したうえでケアを行っている。 | 利用者それぞれの時間に合わせてトイレ誘導を行い、しぐさや様子の変化を観て誘導した結果リハビリパンツが取れた方もいる。失敗などがあっても周りに気づかれないようさりげなく対応し、自立排泄を目標に取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 献立には食物繊維、乳製品を取り入れ、出来る限りの運動をしてもらっている。排泄チェック表も活用しながら個々に合わせて対応している。極度に排便が見られない方には薬剤を使用している。 | | |
| 45 | | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 日中の決められた時間の中ではあるが、好みの温度や順番など一人一人が心地よく入れるように支援している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は本人の体調や状態を見ながら休息できるように声掛けしている。季節に合わせた室温や寝具の調整をし、気持ち良く眠れるように支援している。 | | |
| 47 | (18) | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人記録に薬の説明書を綴じて常に確認出来るようにしている。処方の変更があった場合には専用のファイルに記録し確認出来るようにしている。 | 利用者の薬は看護師が一括管理し、朝・昼・晩に仕分けをして、分かりやすく取り違いの無いように工夫している。日勤者は昼に、夜勤者は夜と朝に利用者の名前と服用まで確認し、間違いが無いように支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 天気が良い日等は外出や散歩、ドライブ等で気分転換できるように支援している。各個人の楽しみごとに対応出来るように努めている。 | | |
| 49 | | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 感染防止に努めながら散歩やドライブ等本人の希望や気分に沿った外出支援を行っている。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 殆どの方が施設管理となっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を持っている方は自ら電話をしている。親せきなどから電話が来た場合は話せる様に努めている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングは居心地の良い温度や明るさに保ち、季節ごとに装飾を変えている。写真も定期的に変えながら掲示している。向かいが公園のため四季折々の景観を楽しめる。 | 冷暖房と換気扇を常時使用し、タオルや洗濯ものを干して温湿度の管理を行い感染症予防を図っている。創作活動で作ったものや行事での写真などをリビングに飾り、居心地の良い環境づくりをしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食卓での場所は決まっているが、各個人が思い思いに過ごせるように家具の配置を工夫し、各々の気に入りの場所を把握して対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族との写真をボードに貼ったり、本人が使用していた物や馴染みの物、家具、仏壇等を置いたりして自分の場所と感じてもらえるようにしている。 | 引き出し付きのベッドやクローゼットを備えており、利用者は馴染みの物やテレビ等を持ち込み自分好みに設えている。手伝いのできる方には拭き掃除や掃除機を使って職員と一緒に綺麗にし、居心地の良い居室にしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室入口には表札を設置し、トイレの表示は見やすくしている。玄関にイスを用意し、自立支援に努めている。 | | |